

[013] 言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/5372>

出版情報：言語文化論究. 13, 2001-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

個人研究業績一覧

(1999年～2000年)

言語科学部門・言語教育学講座

新保 弼彬

- 「世俗化理論の歴史的展開とその諸相(2)」『独
仏文学研究』第50号, pp. 95-108, 九州大学独
仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)
- “‘Nachricht von meiner Audienz beim Kaiser von
Japan’ – Zur Kaempfer-Rezeption bei Matthias
Claudius” In: “Schwellenüberschreitungen”,
Asiatische Germanistentagung in Fukuoka 1999,
Dokumentation Bd.1, pp. 111-123, 日本独文学
会, 2000年8月(論文・単著)

小野 和人

- “‘A Living Way’ in Thoreau’s Poem ‘Old Marl-
borough Road,’” *Studies in Henry David Thoreau*,
六甲出版, pp. 66-75, 1999年10月
- 「I. アシモフのSF作品における言語運用の工
夫と効果」『言語文化論究』No. 12, pp. 15-27,
九州大学言語文化研究院, 2000年8月

廣田 稔

- 『ヴィクトリア朝の小説』, 英宝社, 1999年6月
(著書・共著)
- 「アン・ブロンテ研究ノート — 作家のテーマ
と執筆の目的 —」『言語文化論究』No. 11, pp.
1-8, 九州大学言語文化部, 2000年3月
- 「英国の歴史と文化」, 於: 福岡YMCA, 2000年10
月(講演・単独)

田中 俊明

- 『マルチメディア時代のドイツ語教育』九州大
学出版会, 232頁, 2000年2月(著書・共著)
- 「インテンシブコース学生のドイツ語音声能力」
『独仏文学研究』第50号, pp. 109-123, 九州大
学独仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)

松村 瑞子

- 「日本語の会話における丁寧さ」『韓日言語文化
研究』創刊号, pp. 59-78, 韓日言語文化研究会,
2000年10月(因京子との共著)
- 「日本語会話におけるポライトネス: Brown &
Levinson (1987) 再考」, 第1回韓日言語文化
国際Forum'99 韓国仁川大学, 1999年11月(口
頭発表・共同)
- “Politeness in Japanese Conversations between
People with Different Social Ranking: A Dis-
course-Based Reveiw of Brown & Levinson
(1987).” *International Sympopsium on Linguistic
Politeness: Theoretical Approaches and Intercul-
tural Perspectives.* Chulalongkorn University,
Thailand. December 1999. (口頭発表・共同)

井上奈良彦

- 「21世紀の仮想討論館をめざして — 3D-IES を
使った模擬授業とその後 —」田畑義之編『国
立五大学言語文化部シンポジウム報告書』
[http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~call/symposium/
inoue.html](http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~call/symposium/inoue.html) 1999年12月24日更新(論文・単著)
- “The Pragmatics of Orality in Korean, Japanese,
and English Public E-Mail Postings.” Pemberton
Lyn & Simon Shurville (eds.), *Words on the
Web: Computer Mediated Communication*, pp.
52-62, Exter, England: Intellect Books, 2000年
(論文・共著)
- 「日本人の議論とコミュニケーション」日本コ
ミュニケーション学会 橋本満弘・北出亮・會
澤まりえ(編)『日本コミュニケーション学会創
立30周年記念論文集 第1巻 日本のレトリッ
クとコミュニケーション』73-83ページ, 三省
堂2000年6月(論文・単著)
- 「日英語の議論の比喩」, 第15回大学英語教育学

- 会九州・沖縄支部研究大会, 於: 航空大学校(宮崎市), 1999年11月(口頭発表・単独)
- 「外国語教育と3次元仮想空間」, セミナー『次世代ネットワーク教育への提案』(主催: NRI システムズ関西, 協賛: ソニー, ソニーマーケティング, 野村総合研究所), 於: ソニー高輪オフィス, 1999年12月(口頭発表・共同)
- “Laputa Project: The Potential of the 3D Interactive Education System in College English Education.” The Fourth Conference on Foreign Language Education and Technology (FLEAT IV), 於: 神戸, 2000年7・8月(口頭発表・共同)
- 「3D-IES (三次元仮想環境を利用した新教育システム)の英語教育への応用」, 第7回日本コミュニケーション学会九州支部大会, 於: 九州大学六本松キャンパス, 2000年10月(口頭発表・共同)

山村 ひろみ

- 「スペイン語における事態の分類について」*HISPANICA* 43, 日本イスパニア学会, pp. 41-52, 1999年12月(論文・単著)
- 「estar+gerundio の記述と考察(上)」『言語文化論究』No. 11, pp. 141-163, 九州大学言語文化部, 2000年3月(論文・単著)
- 「estar+gerundio の記述と考察(下)」『独仏文学研究』第50号, pp. 7-28, 九州大学独仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)
- 「estar+gerundio の特殊用法について」『スペイン語学研究』第15号, pp. 121-136, 東京スペイン語学研究会, 2000年8月(論文・単著)
- “Unas dudas sobre la interpretación basada en la oposición aspectual del pretérito simple y el pretérito imperfecto” 『言語文化論究』No. 12, pp. 145-154, 九州大学言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)
- 「estar siendo について」関西スペイン語学研究会, 於: 大阪外国語大学, 2000年3月26日(口頭発表・単独)

- “Unas dudas sobre la interpretación basada en la oposición aspectual del pretérito simple y el pretérito imperfecto” 第1回韓日スペイン語学会, 於: 釜山外国語大学, 大韓民国, 2000年6月16日(口頭発表・単独)
- “Nuevo acercamiento a la concordancia de tiempos en español – con especial referencia a la interpretación propuesta por Carrasco Gutiérrez(1998)–”, SELE2000 (第20回日本スペイン語学セミナー), 於: 舞洲野外活動センター, 大阪, 2000年8月12日(口頭発表・単独)

高橋 里美

- “Transfer in interlanguage pragmatics: New research agenda” 『言語文化論究』No. 11, pp. 109-128, 九州大学言語文化部, 2000年3月(論文・単著)
- “Laputa Project: The Potential of the 3D Interactive Education System in College English Education.” The Fourth International Conference on Foreign Language Education and Technology (FLEAT IV), 於: 神戸, 2000年7月・8月(口頭発表・共同)
- 「3D-IES (三次元仮想環境を利用した新教育システム)の英語教育への応用」, 第7回日本コミュニケーション学会九州支部大会, 於: 九州大学六本松キャンパス, 2000年10月(口頭発表・共同)

言語科学部門 言語情報学講座

田島 松二

- “*Piers Plowman* B. V. 379: A Syntactic Note”, *Notes and Queries* (Oxford: Clarendon Press), Vol. 245, No. 1, pp. 18-20, 2000年3月.(論文・単著)
- “Chaucer and the Development of the Modal Auxiliary *Ought* in Late Middle English”, *Manuscript, Narrative, Lexicon: Essays on Literary and Cultural Transmission in Honor of Whitney F. Bolton*, ed. by Robert Boenig and Kathleen Davis

- (Lewisburg, PA: Bucknell University Press; London: Associated University Presses), pp. 195-217. 2000年9月。(論文・単著)
- 「わが国の英語辞書学・辞書史概観」*The Kyushu Review* 第5号, pp.73-77, 2000年10月。(論文・単著)
- 「齋藤俊雄著『英語史研究の軌跡』(英宝社, 1998)』『英文学研究』第77巻第1号, pp.89-93. 日本英文学会, 2000年9月(書評・単著)
- 「鹿児島大で中世英文学を講義して」*New Volcano*, No. 24, pp.3-5, 鹿児島大学英文学会, 2000年6月(その他・単著)
- 「W. F. Bolton 先生のこと—編集後記に代えて」*The Kyushu Review* 第5号, pp.101-02, 九州大学「九州レビュー」の会, 2000年10月。(その他・単著)
- 「*Piers Plowman* B. V. 579について」英語史研究会第3回大会(於九州大学)2000年3月。(口頭発表・単独)
- The Kyushu Review* 第5号, 2000年10月。(学術誌・編集発行)
- 『英語史研究会会報』第3号, 1999年12月; 第4号, 2000年6月(会報・編集発行)
- Jim Knudsen, *Listen and Write*. 南雲堂, 1999年10月(教科書: 共編注)
- Willie Morris, *My Dog Skip*. 南雲堂, 2000年11月(教科書: 共編注)

恒吉 法海

- 「インターネットを利用したジーベンケース論」, 2000年3月
<http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/%7etuneyosi/sieben.htm>
- 「ハーリヒとデ・プロイン」, 2000年10月
<http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/%7etuneyosi/harich.htm>

恒川 元行

- 「Das doppelte Lottchen の語彙 — コーパス・テキストを応用した語彙調査の試み — 日本

- 独文学会西日本支部『西日本ドイツ文学』第11号, pp.95-108, 1999年11月(論文・単著)
- 「意味的差異と定冠詞の有無 — 言語情報コーパスに基づく形容詞 *folgend* の語法分析 — 」『独仏文学研究』第50号, pp.139-152, 九州大学独仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)

田中 俊也

- “Gmc. Preterite-Presents and IE Nouns of Agency: A Test for the Original Stativity”, Masachiyo Amano, Toshiya Tanaka, Masayuki Ohkado, Miho Nishio, Makoto Kondo, Tomoyuki Tanaka (eds.) *Synchronic and Diachronic Studies on Language: A Festschrift for Dr. Hirozo Nakano (Linguistics and Philology 19)*, Department of English Linguistics, Nagoya University, pp.291-305. 2000年1月(論文・単著)
- “Gmc. *kann ‘know’ Revisited: A Possible New Explanation” 『言語科学』(九州大学言語文化部)第35号, pp.1-13, 2000年2月(論文・単著)
- 「古英語及び古ゲルマン語弱変化動詞の歴史的由来」『英語史研究会会報』(英語史研究会)第3号, pp.8-10, 2000年6月(研究ノート・単著)
- 九州大学大学院言語文化研究院英語共通教科書編集委員会編『A Passage to English 大学生のための基礎的英語学習情報』第1章, 第11章担当執筆, 2000年10月(教科書・共著)

江口 巧

- 「日本語の後置文 — 情報提示の方略 — 」『言語文化論究』No. 12, pp.81-93, 九州大学大学院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)
- 九州大学大学院言語文化研究院英語共通教科書編集委員会編『A Passage to English 大学生のための基礎的英語学習情報』第6章担当執筆, 2000年10月(教科書・共著)

大津 隆広

- 「日本人学習者における英語の関係詞節構造の理解に関する一考察」『言語科学』第35号, pp. 35-46, 九州大学言語文化部言語研究会, 2000年2月(論文・単著)
- 「日本人学習者における英語の関係代名詞の格と関係詞節構造の意味構築パターン」『言語文化論究』No. 12, pp. 95-103, 九州大学大学院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)
- 九州大学大学院言語文化研究院英語共通教科書編集委員会編『A Passage to English 大学生のための基礎的英語学習情報』, 九州大学出版会, 2000年10月, 第4章, 第5章, 第10章, 第12章を担当執筆(教科書・共著)

鈴木 右文

- 「英語共通教科書の試み」『英語英文学論叢』第50集, pp. 55-85, 九州大学英語英文学研究会, 2000年2月(論文・単著)
- 「英語命令文における don't の位置付けについて」『言語科学』第35号, pp. 25-33, 九州大学言語文化部言語研究会, 2000年2月(論文・単著)
- 「映画を利用した快適な英語授業をめぐる」, 『言語文化論究』第11号, pp. 191-197, 九州大学言語文化部, 2000年3月(論文・単著)
- 「3次元仮想空間チャットシステムを利用した英語授業の試行」『言語文化論究』12号, pp. 105-125, 九州大学大学院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)
- 「外国語教育と3次元仮想空間」セミナー『次世代ネットワーク教育への提案』(主催: NRI システムズ関西, 協賛: ソニー, ソニーマーケティング, 野村総合研究所) 於: ソニー高輪オフィス, 1999年12月(口頭発表・共同)
- “Laputa Project: The Potential of the 3D Interactive Education System in College English Education.” The Fourth Conference on Foreign Language Education and Technology (FLEAT IV), 於: 神戸, 2000年7・8月(口頭発表・

共同)

- 「英語共通教科書と3次元仮想空間チャットシステム」九州地区大学一般教育研究協議会, 於: J A アズムホール(宮崎) 2000年10月(口頭発表・単独)
- 「3D-IES(3次元仮想環境を利用した新教育システム)の英語教育への応用」, 第7回日本コミュニケーション学会九州支部大会, 於: 九州大学六本松キャンパス, 2000年10月(口頭発表・共同)
- 九州大学大学院言語文化研究院英語共通教科書編集委員会編『A Passage to English 大学生のための基礎的英語学習情報』九州大学出版会, 2000年10月, 第3章, 第6章, 第14章, 第15章, 第16章を担当執筆(教科書・共著)

文化情報学部・メディア文化情報学

太田 一昭

- 「英国宗教改革と演劇統制 — ヘンリー八世時代」, 『言語文化情報特集号』, pp. 15-29, (九州大学言語文化部), 1999年10月(論文・単著)
- 「英国宗教改革と演劇統制 — エドワード六世時代からエリザベス朝まで」, 『英語英文学論叢』第50集, pp. 33-54, 九州大学英語英文学研究会, 2000年2月
- 「エリザベス朝演劇統制令と公演認可」, 『言語文化論究』第11号, pp. 9-20, 九州大学言語文化部, 2000年3月(論文・単著)

徳見 道夫

- 「第二・四部作における「サリカ法」の持つ意味」, 『英語英文学論叢』第50集, pp. 21-31, 九州大学英語英文学研究会, 2000年2月(論文・単著)
- 「ヘンリー五世の著名な勝利 — アジンコートにおける名誉ある戦いを含む」(上), 『言語科学』第35号, pp. 83-105, 九州大学言語文化部言語研究会, 2000年2月(翻訳・単著)
- “The Salic Law in *Henry V*,” *Shakespeare Studies*, vol. 37, pp. 45-61, The Shakespeare Society of

- Japan, 2000年7月(論文・単著)
- 「九州大学における英語教育, 平成12年度国立五大学言語文化部シンポジウム」於: 名古屋大学言語文化部, 2000年10月, パネリスト 藤原五雄(東北大学, ドイツ語), 飯田秀敏(名古屋大学, 朝鮮・韓国語), 金子元臣(大阪大学, ドイツ語), 上田雅信(北海道大学, 英語), 中島忠宏(司会者, 名古屋大学, ドイツ語), (口頭発表)
- 「錯綜する情報 — シェイクスピアの『マクベス』を中心に」, 第39回日本シェイクスピア学会全国大会, 於: 神戸松蔭女子学院大学, 2000年10月(口頭発表・単独)
- 九州大学言語文化研究院英語共通教科書編集委員会編『A Passage to English 大学生のための基礎的英語学習情報』, 2000年10月, 編集委員長(教科書・共著)

津村 正樹

- 「久留米俘虜収容所における演劇活動(1)」『言語文化論究』第12号, pp. 35-48, 九州大学大学院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)

谷口 秀子

- 「おとぎ話のジェンダーとフェミニズム」『言語文化論究』第11号, pp. 29-38, 九州大学言語文化部, 2000年3月(論文・単著)
- 「子どもの絵本と社会 — Curious George の文明観 —」『言語文化論究』第12号, pp. 29-34, 九州大学言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)
- ウィリアム・ゴールディング『可視の闇』, 470頁, 開文社, 2000年6月(翻訳・共著)

福元 圭太

- 「映画のイコノロジー — 『ヴェニスに死す』の映像メディアへの転換 —」『独仏文学研究』第50号, pp. 153-169, 九州大学独仏文学研究会, 2000年(論文・単著)
- 『新アポロン独和辞典』, 同学社, 2000年3月(辞

典・分担執筆)

鈴木 敦典

- 『新アポロン独和辞典』, 同学社, 2000年3月(辞典・分担執筆)

文化情報学部門・比較言語文化学講座

青山 太郎

- 「ロシアの性愛論Ⅴ. ローザノフ(2)」『言語文化論』No. 10, pp. 133-145, 九州大学言語文化部, 1999年3月(論文・単著)

岩佐 昌暉

- 「中国社会主义文化の解体」, 『APC アジア太平洋研究』第6号, pp. 16-27, (財)アジア太平洋センター, 2000年3月(論文・単著)
- “The Dissolution of China's Socialist Culture: The State of Literature in the 1980s and 1990s, “APC Journal of Asian-Pacific Studies, No. 6, pp. 19-34, Asian Pacific Center, March 2000(論文・単著) 英語バージョン
- 『何を学べばいいかわかる 音からの中国語』pp. 1-125, 光生館, 2000年2月(教科書・共著)
- 『「文革期文学」の基礎的研究』(平成9~11年度科学研究費補助金研究成果報告書), pp. 1-244, 2000年3月(その他・単著)
- 「(精読) 李国文「悵惘」」第1回~第4回, 『中国語』487号~490号, 毎回4頁, 内山書店, 2000年8月~11月

山内 正一

- 『ロマン派の空間』, pp. 27-61執筆, 松柏社, 2000年3月(著書・共著)
- 「ワーズワスと土地/風景の記号学 — 「土地命名についての詩群」考 —」, 『比較社会文化』第6巻, pp. 69-77, 九州大学大学院比較社会文化研究科, 2000年3月(論文・単著)

棚瀬 明彦

- 「簡易テキスト・データベース: ヘルダーリン

の「翻訳集」およびドイツ語特殊文字を含む文字列の検索と試作プログラム』『独仏文学研究』第50号, pp. 125-130, 九州大学独仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)

ヴォルフガング・ミヒエル

- “Prostratio und Pickelheringsreigen – Engelbert Kaempfers Erlebnisse im Schloss zu Edo und deren Hintergrund,” *Japanische Gesellschaft fuer Germanistik* (Ed.): Asiatische Germanistentagung in Fukuoka 1999 – Dokumentation. Tokyo, Sanshusha, 2000, pp. 124-134. (論文・単著)
- “His Story of Japan – Engelbert Kaempfer’s Manuscript in a New Translation,” *Monumenta Nipponica*, Volume 55, No. 1 (Spring 2000), pp. 109-120. (論文・単著)
- “Kurz und buendig: eine Japan-Skizze aus dem Jahre 1669,” 『言文論究』第12号, pp. 49-64, 九州大学大学院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)
- 「ドイツにおけるカスパー・シャムベルゲル」洋学史研究会 (Society for the History of Western Learning), 於: 青山学院大学, 1999年11月(口頭発表・単独)
- “The Reception of Western Medicine and Pharmaceutics in Seventeenth Century Japan,” Symposium on Four Hundred Years History of Dutch-Japanese Relations, Kyoto, 於: 国際日本文化研究センター, 1999年11月(口頭発表・単独)

小谷 耕二

- 「歴史を書くこと, 語ること — Robert Penn Warren の All the King’s Men について」第46回九州アメリカ文学学会大会, 於: 福岡大学, 2000年5月(口頭発表・単独)
- 「南部文芸復興期の「歴史」小説」日本英文学会第53回九州支部大会シンポジウム「アメリカ作家と歴史認識」, 於: 福岡女学院大学, 2000年10月(口頭発表・単独)

阿部 吉雄

- 「ディエゲーシスからミメシスへ — 虚構言語における状況定位表現の歴史の変遷(3)1800年前後のディエゲーシスのテキスト(ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』と『親和力』)」, 『独仏文学研究』第50号, pp. 47-59, 九州大学独仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)
- 「ディエゲーシスからミメシスへ — 虚構言語における状況定位表現の歴史の変遷(4)ミメシスへの到達(カフカの『アメリカ』, 『審判』, 『城』)」, 『言語文化論究』No. 12, pp. 1-14, 九州大学大学院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)

高橋 勤

- 『ロマン派の空間』, pp. 93-130, 松柏社, 2000年5月(著書・共著)
- 「ソローの牢獄」, 九州アメリカ文学会, 於: 福岡大学, 2000年5月13日(口頭発表・単独)
- 「自然とナショナリズム — 18世紀アメリカにおける墮落と再生の神話」九州アメリカ文学会例会, 於: 北九州大学, 2000年9月2日(口頭発表・単独)
- 「墮落の地としてのアメリカ — 18世紀アメリカにおける自然表象とナショナリズム」, 文学・環境学会全国大会, 於: 京都教育文化センター, 2000年10月16日(口頭発表・単独)
- 文学・環境学会編『たのしく読めるネイチャーライティング<作品ガイド120>』, 293頁, ミネルヴァ書房, 2000年10月, 編集委員長および『ヴァージニア州覚え書』ほか項目担当。(総説・分担執筆)
- 「飯田操著『川とイギリス人』(平凡社, 2000)」, 『文学と環境』第3号, 2000年10月(書評・単著)

西山 猛

- 「広東語の選択疑問と中古漢語の『定』」, 『言語文化論究』No. 12, pp. 137-144, 九州大学大学

院言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)

- 「漢語方言文法との比較による古代漢語文法研究の可能性」, 第184回九州大学中国文芸座談会, 於:九州大学文学部, 2000年1月22日(口頭発表・単独)
- 「古代漢語“是”字中の系詞の産出与指示代詞的發展」記念王力先生誕辰一百周年語言学国際学術研討会, 於:中国北京大学, 2000年8月14日(口頭発表・単独)

中里見 敬

- 「叙述学与文体学在中国的受容 — 評申丹《叙述学与小説文体学研究》—」『言語科学』第35号, pp. 65-82, 九州大学言語文化部言語研究会, 2000年2月(論文・単著)
- 「初出誌で読む『雪鴻源史』— 都市ジャーナリズム作家としての徐枕亜 —」『中国小説・戯曲の發展史における遊民の役割に関する研究』平成10年度～平成11年度科学研究費補助金(基盤研究[B][2])研究成果報告書, 研究代表者・磯部彰, pp. 95-111, 2000年2月(論文・単著)
- 「抒情する文言 — 『玉梨魂』の語りと文体 —」村上哲見先生古稀記念論文集刊行委員会編『中国文人の思考と表現』, 汲古書院, pp. 249-269, 2000年7月(論文・単著)
- 「抒情する文言 — 『玉梨魂』の語りと文体 —」2000年度九州中国学会, 於:都城高専, 2000年5月20日(口頭発表・単独)
- 「自由間接話法研究の新成果: 申丹著『叙述学与小説文体学研究』」『東方』第232号, pp. 34-37, 東方書店, 2000年6月(書評・単著)

大学教育研究センター

カスヤン, アンドレアス

- “Grammatik im Deutschunterricht fuer japanische Studenten: Zur Integration von Grammatik und Wortschatzarbeit.”『独仏文学研究』第50号, pp. 83-94, 九州大学独仏研究会, 2000年7月(論文・単著)

志水 俊広

- 「新学習指導要領の問題点」, 長崎県高等学校教職員組合第47次教育研究集会 於:長崎ウエスレヤン短期大学, 1999年11月(口頭発表・単独)
- “Laputa Project: The Potential of the 3D Interactive Education System in College English Education.” The Fourth Conference on Foreign Language Education and Technology 於:神戸, 2000年7・8月(口頭発表・共同)
- 「3D-IES(三次元仮想環境を利用した新教育システム)の英語教育への応用」, 第7回日本コミュニケーション学会九州支部大会, 於:九州大学六本松キャンパス, 2000年10月(口頭発表・共同)
- 「Computer-Based TOEFL(CBT)の特徴と問題点」第29回九州英語教育学会研究大会, 於:長崎純心大学, 2000年10月(口頭発表・単独)
- 『古賀十二郎 外来語集覧』長崎文献社, 1171頁, 2000年10月(辞典・分担執筆)

情報基盤センター(言文兼任)

田畑 義之

- 『マルチメディア時代のドイツ語教育』, 232頁, 九州大学出版会, 2000年2月(著書・共著)
- 「ドイツ語授業におけるビデオの活用法」, 『独仏文学研究』50号, pp. 131-137, 九州大学独仏文学研究会, 2000年5月(論文・単著)
- “Computereinsatz im Unterricht und zum Selbststudium” *Asiatische Germanistentagung in Fukuoka 1999 Dokumentation*, pp. 886-894, Japanische Gesellschaft für Germanistik, 2000年6月(論文・単著)
- 「ドイツ語初級クラスにおける「言語+文化」教育」『言語文化論究』No. 12, pp. 127-136, 九州大学言語文化研究院, 2000年8月(論文・単著)

留学生センター(言文兼任)

板橋 義三

- 「古代日本語とオーストロネシア諸言語におけ

- る一形態の同源性 — その2：古代日本語」『言語文化論究』No. 11, pp. 165-189, 2000年3月 (論文・単著)
- 「古代日本語とオーストロネシア諸言語における一形態の同源性 — その3：オーストロネシア諸言語」, 『言語科学』第35号, pp. 47-64, 2000年 (論文・単著)
- “On the Cognateship of OJ i/si with OK i/si” *Acta Orientalia* Vol. 52(1), 1999 (論文・単著)